

# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 赤坂小学校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立 赤坂小学校 6年1組（在籍児童数 34名） 特別支援学級（知的）（在籍児童数 5名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツを通して障害者や高齢者に理解を深める。また、一緒にできるスポーツを体験することで、少しの工夫で共に活動できる範囲が広がり、健常者と障害者や高齢者が共生できることに気づき、インクルーシブな社会を目指す姿勢を養う。</li> <li>・障害者や高齢者への理解を深め、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践する心情を養う。</li> </ul>
5 取組内容	<p>【事前学習】</p> <p>1. 「パラリンピック」って何？ オリンピックはよく聞かすが、パラリンピックを具体的に知っている児童は少なかった。特に、競技やカテゴリーについてなど、様々な工夫があることについて知っている児童は数人であった。このため、パラリンピックが開催される理由や目的、大会規模等パラリンピックの概要について学んだ。</p> <p>2. パラリンピック種目はどんなものがあるか。 インターネットの情報を活用して、パラリンピックの種目について確認を行った。この中で、健常者と同じ種目もあれば、健常者の種目にはない独自の種目もあることに着目し、具体的な協議風景や試合の動画等を視聴し、各々の種目の概要を把握した。</p>

	<p>3. パラリンピック種目と通常種目の違いは何？  車いすバスケットボールと車いすテニスを例示し、健常者の種目との同じものや違いを考えた。ルールや用具（コート等も含む）に着目し、違いがあればなぜ違うのかを考え、意見を出し合うことで、パラスポーツについての工夫を確認した。また、なぜルールや道具の工夫を行っているのかまで考えを深めた。</p> <p>4. 「ボッチャ」ってどんなスポーツ？  パラスポーツの一つとして、「ボッチャ」を取り上げた。ボッチャの映像を視聴し、概要を確認するとともに、次回に講師を招いて講習会を実施することを伝えた。</p> <p>【ボッチャ講習会】  北九州市障害者スポーツセンター（アレアス）から講師を招聘し、障害者スポーツ普及の意義、障害者スポーツの種類、及び工夫、ボッチャの概要、等のレクチャーを受けた。  次に実際に「ボッチャ」を体験した。体育館に2コート作成し、講師の助言を基にボッチャを楽しむことができた。  最後にまとめとして、障害のある人とない人が共に理解をして、お互いがよりよく生きていける社会、インクルーシブな社会を目指すことは大切なことであり、ぜひ実現させていかなくてはいけないことについて話を聞いた。また、実現へ向けて進むためには、次世代を担う子供たちの力が絶対に必要であることについて話を聞いた。</p> <p>【事後学習】  学習の総括を行った。児童は様々な視点から意見を出し合い、グループで学習のまとめを行い、学級全体にグループでまとめた内容の発表を行った。  最後に、児童一人一人が、自分の考えたことや思いを文章としてまとめた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>児童にパラスポーツへの興味を喚起できたことが大きな成果だといえる。障害者スポーツという言葉を知っていても実際にどのような競技なのか、また競技を通しての目的は何か等、児童が感じ、考えるととても良い機会になったと考えている。</p> <p>さらに、パラスポーツから障害のある人への配慮、インクルーシブな社会実現へと意識を繋げていく大きなきっかけになったと考えられる。</p> <p>児童の感想を見ても、実際に体験を通じたこれからの活動を通して「パラスポーツに興味があった」「考えるきっかけになった」等の感想が多くみられた。</p> <p>【児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私は今までボッチャやゴールボールにあまり興味がなかったのですが、ボッチャを体験して、パラ亜スポーツへの興味がわきました。パラスポーツの良いところは、障害がある人でもない人でも、お年寄りや子供でも分け隔てなく参加できることだと思います。例えば、ゴールボールは目の不自由な人でも参加できるように、全員がゴーグルをつけて前が見えないようにしたり、ボールの中に音が鳴るものを入れるなどの工夫をしたりしています。このように障害がある人も一緒にスポーツをしたり、同じ場所で過ごしたりすることは大切だということがわかりました。いろいろなパラスポーツに携わってみたいと思いました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はオリンピックやパラリンピック、障害がある方等に興味がなかったけど、今回の子の学習で少しは興味が持てました。そして、本当にボッチャの体験ができたことで、最初から最後までとても楽しめました。パラリンピックの話を聞いて障害がある方もスポーツの力で楽しんでいるんだなと思ったので、スポーツを大切にしたいと思いました。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校は住宅地に位置し、古くから居住している方と新しく居住された方が同じ地域で生活をしている。このため、地域住民の年齢構成が幅広く、児童が地域の高齢者と接する機会も多い。さらに、高齢者を中心とした地域活動が盛んであり、児童を対象とした地域行事なども開催されている。このため、児童が高齢者や障害を持った方等様々な方と接する機会が多いと思われる。</p> <p>そこで、高齢者や障害を持った方への理解を進めるために、「パラスポーツ」を取り上げ、スポーツを通してひととの交流や相互理解を深められるように、本事業を設定した。</p> <p>コロナ禍での実施となったため、6年生のみの実施となったが、全ての児童が体験に係ることができ、有意義な取り組みとなったと考えている。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャは、簡単で楽しく、だれでもできる手軽な競技である。このため、競技を行う事が主になりがちで「楽しかった」で終わってしまう可能性がある。児童に対して本取組の目的を明確に位置付ける必要がある。</li> <li>・一人一人の児童が競技に多く参加するために、コートと用具を十分に準備する必要がある。できれば、得点板（模造紙等）を準備したり、チーム分けがわかりやすいようにしたりすることで環境を整えることも大切である。</li> <li>・車いすテニスや車いすバスケットなど障害のない人のお馴染みの競技との比較等も児童の関心を高める良い教材と思われる。</li> <li>・時間的余裕があれば、他のパラスポーツなど複数の競技を体験するとよいのではないかと考えられる。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある方への配慮する心情を高めさせるために、継続してボッチャに取り組む。また機会があれば、他のパラ競技や車いすテニスや車いすバスケットへの取り組みを企画したい。</li> <li>・学級の仲間づくりの際に、ボッチャを活用し、良好な人間関係づくりを行う。この時に、障害のある方や高齢者を含め、他者理解を進める心情や思いやりの心を育成する。</li> </ul>